● 読書感想文コンクール 小学校 1･2･3 学年 の部●

入選

田﨑　智也（たさき　ともや） 由木中央小 ３年生

作品名:ココロをかえてみたいな
図　書:ココロ屋

ぼくは、『ココロ屋』という本を読みました。この本を読んだきっかけは、あらすじを読んでおもしろそうだなと思ったからです。

このお話は、ひろきとゆうやがけんかしてひろきが先生にしかられて、
「心を入れかえなさい。」
と言われて教室をとび出しました。ろうかを走っている時、「べつの心に入れかえられたらいいのになあ」と思っていました。その時、遠くからドアがやって来て中に入ってみると、ココロ屋のウツロイはかせがいました。
「どのココロにいたしましょうか。」
と聞かれて、「自分のココロ」と「やさしいココロ」をいれかえたところからお話が始まりました。

一番心にのこった場面は、教室にもどってけんかをしていたゆうやにあやまった場面です。理由は、これまでは、あやまったりしないで人のせいにしていたけど、「やさしいココロ」になって
「ごめんなさい。」
とあやまれたからです。ぼくだったら、自分の心の時にあやまっていたと思います。

ひろきは、「やさしいココロ」から「すなおなココロ」になって「あたたかいココロ」になってさい後に「自分のココロ」にもどりました。「やさしいココロ」になった時、やさしいだけになってしまってみんなの言う事を聞きすぎてさい後は、自分がこまってしまいました。ココロ屋のココロはきょくたんすぎるので自分に合っていない事にひろきは気づきました。「自分のココロ」にもどった時、作ってもらったココロとちがって「自分のココロ」はへんかしたりせい長したりする事が分かって「自分のココロ」のよさに少し気づきました。

ひろきは、自分のせいかくがらんぼうでおこりっぽいという事がよく分かっているのがすごいしそんなせいかくをかえたいと思っているところがえらいと思います。

でもぼくだったら自分の心に「あたたかいココロ」をついかしたいです。なぜなら家ぞくにあたたかい言葉をかけてあげたいからです。家ぞくには、心の中ではダメだと思っている言葉をつい言ってしまうからです。ぼくも、今よりもっと自分の心を知ってわるい心といい心をさがしてみたいです。